

土木工事業の労働災害防止対策講習会を開催

岡山労働基準監督署

平成 25 年における岡山県内の労働災害による死亡者数は 34 名（平成 25 年 12 月 9 日現在）であり、昨年の年間死亡者数 33 名を既に超えています。このうち、建設業における死亡者数は 11 名で、特に土木工事業にかかる死亡者が 7 名を占めています。さらにこの 7 名の死亡災害のうち、実に 6 名が車両系建設機械及び移動式クレーンが関係して亡くなっております。

岡山労働基準監督署管内においても、本年の死亡者数は既に 16 名で、昨年の年間死亡者数 15 名を上回っております。また、土木工事業における死亡災害は平成 21 年以降発生していませんでしたが、本年は 2 名が亡くなり、2 名の災害とも車両系建設機械が関係してあります。

このような状況の中、岡山労働基準監督署では 12 月 9 日、11 日、13 日の 3 日に分けて、管内の土木工事業を請け負う業者に対し、特に車両系建設機械による労働災害防止を目的とした講習会を開催しました。



挨拶する井上岡山監督署長



講習会の状況

講習会では、労働災害の状況及び傾向、車両系建設機械等が関係する災害事例及び災害防止のチェックポイントについて説明し、基本に立ち返った安全管理を行うよう呼びかけを行いました。

これから年度末を迎えるにあたり、工事量の増加等が見込まれ、労働災害の増加も懸念されます。各事業場及び工事現場におかれましては、事故を起こさないという決意を持って、労働災害防止対策に取り組んでください。